

■樋口一葉 小説家、歌人。家を支えるため職業作家を志し、わずか1年余に名作を次々発表して、肺結核で没した。

ひぐちいちよう

学問のすすめ1872= 東京内幸町一番屋敷の東京府庁構内の長屋官舎で生まれる。父は山梨の農民出で、離郷して御家人株を買って幕府の直参になり、維新後は府庁に勤務。

明治6年政変 1873= 1歳：

西南戦争・・・1877= 5歳：本郷小学校に入学、

大久保暗殺・1878= 6歳：この年までに小学読本や四書の素読を受け、草双紙を耽読。

父の転任による転居につれて転校し、

明治14年政変1881= 9歳：

岩倉具視没・1883=11歳：下谷の私立青梅学校高等科を首席で卒業後、和歌や裁縫の稽古をする。

帝国大学始・1886=14歳：父の縁で中島歌子の萩の舎塾に入門、桂園派の和歌を学ぶ。直に才能を発揮し、三才媛に数えられる。

国民之友始・1887=15歳：最初の日記を執筆。長兄が死去し、相続戸主となる。

帝国憲法発布1889=17歳：父が多額の負債を抱えて死去、次兄・姉は外に出ていたので、家を継ぎ、洗い張りや針仕事で一家の生計を支えてゆく。負債を知った許婚の旧三多摩自由党员渋谷三郎も結婚を解消。

帝国議会始・1890=**18歳**：同門の田辺花圃が「蕪の鶯」を発表して文壇に迎えられたことに刺激され、職業作家となる決意をかため、

足尾鉍毒始・1891=19歳：「東京朝日新聞」の専属作家半井桃水の門をたたいて小説制作の指導を乞い、何編か習作を執筆。

大本教・・・1892=20歳：*桃水が主宰する雑誌「武蔵野」第1号に処女作「闇桜」を発表。花圃の世話で、陶芸家の兄をモデルとした「うもれ木」を「都の花」に発表して出世作となり、その後1年足らずの間に、短編7つを発表する。

郡司千島探検1893=21歳：桃水との仲が醜聞化、門を離れるとともに、小説を生計の資とする困難を自覚して、本郷菊坂町から吉原遊廓に接する下谷竜泉寺町に転居、雑貨屋を開業した。このころから馬場孤蝶、平田禿木ら「文学界」同人との交流がはじまり、「雪の日」を寄稿。彼らの浪漫的情熱に啓発されたことと相まって、実生活の苦闘が作家的成熟をもたらすことになった。結局はみのらなかつたものの、桃水との恋愛体験も、作品に奥行きを加えるかけがえのない契機であった。

日清戦争始・1894=22歳：本郷丸山福山町に転居。*貧困の中、{文学界}に「大つごもり」「たけくらべ」、{国民之友}に「にぎりえ」「十三夜」などの名作を次々発表、

日清戦争終・1895=23歳：*{太陽}に「ゆく雲」を発表して、広く名が知られるようになり、{文芸倶楽部}に「たけくらべ」が一括掲載されると、{めざまし草}で森鷗外らが激賞、文名が一気に高まったが、

白馬会・・・1896=24歳：肺結核が急速に進行して、没した。